令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究３	公益目的事業　17
主査名	味水佑毅 流通経済大学教授	
研究テーマ	諸外国における道路課金の技術と制度に関する研究※	

研究の目的：

本研究プロジェクトの目的は、近年、混雑対策や環境対策に役割を拡大している道路課金について、技術と制度の両面から諸外国の状況を整理し、特に以下の３点に取り組みつつ、我が国の道路行政、自動車業界への示唆を得ることである。

(1)欧米を中心とした諸外国の道路課金の制度・徴収方法に関する最新動向の整理

(2)カーボンニュートラルに向けたEV・FCVの普及と、その普及を支えるインフラ整備に関する最新動向の整理

(3)道路課金に付随する新たな展開に関する検討

研究の経過（4 月～3 月）：

今年度は 5 回の研究会を開催し、各研究会では研究会メンバーによる研究報告、および討議を行った。

第 1 回（2024 年 6 月 27 日）：発表テーマは「電気道路（走行中給電インフラ）課金インフラ」「ニューヨーク混雑課金の動向」「グリーントラック輸送へ向けての高速道路」「ヨーロッパにおける CO_2 課金」「デジタコ普及促進の検討会の動向、技術基準の改正」「ドイツの大型車課金の動向」など。

第 2 回（2024 年 9 月 3 日）：発表テーマは継続のものを除き、「電気道路課金のポリシー」「東京湾アクアラインにおける ETC 時間帯別料金の社会実験の効果分析」「道路交通の脱炭素達成からみた施策の評価」「デジタル・タコグラフの義務化状況の整理」「米国における電子ログ記録装置(ELD)の最新状況」「世界の道路課金の動向」など。

第 3 回（2024 年 11 月 7 日）：発表テーマは継続のものを除き「ライフサイクルからみた自動車の脱炭素実現の見通しと実現に向けた課題」「電気道路課金のロールモデル」「米国における通行料金の請求詐欺」「イタリアにおけるレンタカーの ETC 利用」「EV トラックバッテリーの充電方式」「中国におけるリモート運行車両監視」「デンマークにおけるトラック通行料金の走行距離課金への転換」「通過交通対策としての大型貨物車税」「ペンシルバニア・ターンパイクにおける未払料金の回収方法」「シンガポール陸上交通庁の DATAMALL」など。

第 4 回（2025 年 1 月 16 日）：発表テーマは継続のものを除き「東京湾アクアラインにおける ETC 時間帯別料金の社会実験の内容変更」「シカゴ、インド、タイにおける混雑課金の動向」「ニューヨーク混雑課金の導入後の状況」「米国における自動運転トラックの動向」「GPS 利用ソフトメーターの告示案の検討」「国土幹線道路部会における高速道路料金の検討」など。

第 5 回（2025 年 3 月 12 日）：発表テーマは継続のものを除き「ERS の実証試験動向」「GPS 走行距離計と日米欧のスピードメーターの法規制（許容誤差）」「強靭で災害に強い道路ネットワークの検討」など。

令和６年度研究プロジェクト研究概要報告

研究の成果（自己評価含む）：

上述した研究会での報告と議論は、冒頭で示した本研究プロジェクトの目的に合致するものと考える。なお、研究会での議論をまとめた報告書を、以下の構成で作成予定である。

１章　世界の道路課金の動向

２章 商用自動運転トラックの動向

３章　ニューヨーク市中心地区の混雑課金

４章　道路走行車両データのデジタル化（DX）

５章　東京湾アクアライン変動料金制社会実験内容の変更

６章　電気道路（走行中給電インフラ）課金インフラ

７章　強靭で災害に強い道路ネットワーク

今後の課題：

わが国の道路行政、自動車業界について考えるうえでも、諸外国における道路課金の最新動向および自動運転や車両データのデジタル化、走行中給電インフラなどに関する取り組みのレビューは有用であり、今後も継続していきたいと考えている。